

このコーナーでは、富士地区 2 市 1 町(富士市・富士宮市・芝川町)の情報をお知らせします。今回は、富士宮市と芝川町にある歴史的建造物や遺跡について紹介します。

富士宮市 「狩宿の下馬ザクラ」と「井出館跡」

建久三年(一一九二年)に征夷大将軍になった源頼朝は、その翌年、多数の御家人を集め富士野において巻狩を行いました。その舞台となった富士宮市北部の白糸・上井出地区には、富士の巻狩にまつわる伝説が数多く残っています。中でも、頼朝の宿所が置かれたと伝えられる狩宿の井出家やその周辺には、「狩宿の下馬ザクラ」や「井出館跡」などの代表的な伝承地があります。

「狩宿の下馬ザクラ」は、ここで頼朝が馬からおりたところだと言われている。この桜には、頼朝が馬をつないだという「駒止めの桜」の伝説や、頼朝が宿所の前に刺した桜の枝が根づいたものなどの伝説もあります。この桜は国の天然記念物に指定されています。樹種はアカメノヤマザクラで、花の見ごろは四月中旬です。



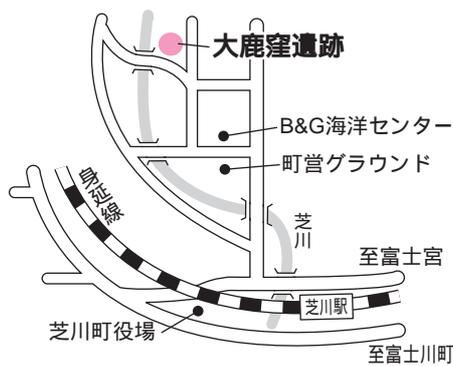
富士宮市文化課
☎0544-22-1187



芝川町 「大鹿窪遺跡」

芝川町の中心部を南北に縦断して富士川に合流する芝川の左岸側、大鹿窪という地区で、縄文時代から中・近世の遺跡が発掘されました。中でも、縄文時代草創期後半(約一万一千年前)と思われる集落跡が中心に見つかりました。

この「大鹿窪遺跡」では、現在わかっているもので十一基の住居跡が発見されています。このうち八基の住居跡が、広場と思われる場所を中心に半円形(馬てい形)に並んで集落の形をしていました。広場には、石を集めて料理をした跡と思われる集石遺構や、祭事を行ったと思われる。従来、このように集落を形成していたのは、本州では縄文時代草創期の次の時代(縄文時代早期中葉)と考えられていたもので、その意味でも貴重な遺跡と言えます。なお、現在は、遺跡の保護(風化や劣化防止)を目的に砂をかぶせてあります。



芝川町教育委員会
☎0544-65-0402